

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800195		
法人名	社会福祉法人 親孝会		
事業所名	グループホーム 太陽の郷		
所在地	福岡県飯塚市鯉田516番地17		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果確定日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和6年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人親孝会は平成6年4月に飯塚市下三緒にて特別養護老人ホーム太陽の郷を開設し、その後、ショートステイ、ケアハウス、デイサービス、地域包括支援センターを開設し運営しています。平成21年5月より、飯塚市鯉田にて介護付有料老人ホーム、グループホームを開設しました。当施設の職員のみではなく、法人全体で利用者の皆様(ご家族)を支える体制を整えています。地域密着型の精神を重視して利用者様一人ひとりに合わせた介護を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人らしい生活を支援すべく、個々の人間性を尊重し、精神的身体的不安を取り除き、住み慣れた地域での社会参加を支援し、家族との連携や信頼関係を築くとの理念を掲げ、日々実践に邁進している。現状に即した柔軟な支援で、再三不安を訴える入居者がトランプに興じたり、失語症で意向の把握が困難な入居者がカラオケで歌ったり、しりとりゲームで発語が出るまでになり、暮らしぶりや写真が掲載された個別のお便りは、家族の意見表出の好機となっている。運営推進会議には毎回自治会長や民生委員、地元消防団長の参加があり、コロナ禍以来参加できなかった各区自治会長や地元の学校長などの参加がある地域の「長さん会議」に管理者が参加予定で、今後も地域と連携しながら地域密着型サービスのさらなる展開が期待できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム 太陽の郷**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念の基、グループホーム独自の理念を作成しており、職員間で共有し実践につなげている。	その人らしい生活を支援すべく、個々の人間性を尊重し、精神的身体的不安を取り除き、住み慣れた地域での社会参加を支援し、家族との連携や信頼関係を築くとの理念の実践に日々邁進している。入居者の「ありがとう」「嬉しい」などの言葉が、職員の励みとなっている。	毎月のミーティングなどで理念の読み合わせや唱和など機会を設け、理念の意識付けや振り返りで理念を共有し、さらなる理念の具現化を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設長が、鯉田地区の各長が集まる「長さん会議」に参加して地域の情報を得ている。 コロナ禍において、その開催が中止となった時期があった。	コロナ禍以来参加できなかった「長さん会議」に令和6年度は参加し、地域行事などの情報を得る予定である。併設施設で開催された三味線や演劇の慰問を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、当事業所で行った認知症の研修の内容を報告、説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第4金曜日に開催している。 当事業所の取組み状況や利用実績等を報告し、ご意見やご指摘を頂いている。 又、ご質問にも答えている。	運営推進会議は自治会長や民生委員、地元消防団長、市職員などの参加で開催し、会議録を整備している。運営状況を報告し、スピーチロックや身体拘束について意見を交わし、慰問について質問を受けている。	運営推進会議設置目的に勘案し、会議録の公表とともに、家族が参加できる日程の調整や、意見の表出を促すためにホーム便りなどで会議内容の報告を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問を受け入れており、当事業所の実情を見て頂いたり説明している。	市に居室情報を提供し、入居者の紹介を受けたり、ケースワーカーに当該入居者の暮らしぶりを報告している。センサー設置が身体拘束の対象となるか問い合わせるなど、日頃から連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取組みを実施している。 玄関は安全上、施錠しているが、いつでも開けられる状態にしている。	運営推進会議同日に身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束ゼロの取組みを報告している。内部研修で言葉による拘束も周知し、職員は「待つて」にはすぐに対応できることを説明している。家族に了解を得て夜間のみセンサーを設置し、転倒を防止している入居者もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対して高齢者虐待防止に関する研修を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人の制度について職員研修を行っている。 ご家族等の問い合わせがあれば活用出来るように支援する。	成年後見制度に関するパンフレットを整備し、内部研修を実施しているが、制度の活用や関係機関と制度等の活用の協議を予定している入居者もいない。	成年後見制度のみならず日常生活自立支援事業の事業や制度の内容やその違いについて研修し、状況に応じた支援を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、ご家族に重要事項説明書、利用契約書等の説明を行い、ご理解を得ている。又、重要事項説明書に変更が生じた場合は、その都度、ご家族に説明し、ご理解を得ている。但し、利用者様本人に、ご理解を得るのは困難である。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。又、ご家族の来所の際にもご意見やご要望を聞いている。	家族来所時に個々の暮らしぶりを報告し、意見を伺う機会としている。トランプに興じている様子の写真に安心したとケアマネージャーに話す家族もあり、暮らしぶりや写真が掲載された担当職員による個別のお便りは、意見表出の好機となっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議の際に職員の意見や要望を聞いている。 又、職員の求めに応じて個人面談を実施して運営に反映させている。	毎月の職員会議は研修やケアカンファレンスの場となり、意見や提案を話し合っている。年2回実施している自己評価で気になる点や研修参加希望などは、個人面談で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件や職場の環境に配慮し、職員が働きやすい環境に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークや派遣会社を通して職員の採用を行っており、性別、年齢は不問としている。 又、キャリアアップシートを作成しており、職員が目標を持って働ける環境としている。	30代～60代の男女の職員が職員や人材派遣会社などの紹介で入社し、個々の状況に応じて勤務している。法人内の異動はなく、短時間勤務の子育て中の職員は、急な休みにも「(子どもは)大丈夫だった」と声かけがあり、働きやすいと笑顔で話している。日勤勤務者が夜勤に就くため、夜勤専従者の雇用はない。今年度は、1名の職員が認知症基礎研修を外部研修で受講している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重に関しては、当事業所の理念にも掲げており職員間で周知している。 高齢者虐待の研修の際に人権尊重にもふられている。	虐待防止研修で入居者の人権を尊重するとともに、契約書や重要事項説明書に入居者や入居者の家族のハラスメント対応を明記し、ハラスメント研修で人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける機会は少ないが、法人内で研修や各職員個人に沿った研修を受ける機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	普段は他事業所との交流は無いが、必要に応じて他事業所の管理者の意見を聞くようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人の訴え、要望には出来る限り対応している。又、訴えを待つのではなく、こちらから汲み取る努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の要望は可能な限り取り入れる努力をしている。随時、相談にも応じている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、ご家族と連絡を取り、ご本人がどのようなサービスを受けたいのか、どのようなサービスをして欲しいのかをお聞きして介護計画を作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ノーマライゼーションの理念を基に取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と綿密に連絡を取りながら、ご本人にあったサービスを提供出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去、数年はコロナ禍で、地域行事が中止となったりしていたので参加出来ていない。今後は地域行事の参加や地域に買い物にお連れしたい。	現在は、居室で人数や時間を制限した面会をお願いし、家族との外出や外食の機会はないが、令和6年度から、誕生月には担当職員と入居者の希望の場所での外食を支援する予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく皆が一同に集まる様に食堂にて過ごして頂いている。そこで利用者同士でトランプ等のレクレーションを行い利用者が孤立しない様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業者で看取った場合や退所後に死亡された場合は法要に参列させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や言動にて、ご本人の思いやご希望を汲み取っている。	基本情報に生活歴や家族構成などを整備し、アセスメント結果は全職員で共有している。不安を取り除く声かけや説明を励行したり、食事や行事以外は自室で過ごしたいなど、夫々の思いを受け止めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族にお聞きして情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて、利用者一人ひとりの状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に介護計画を立案し実施出来るように努めている。又、職員参加の担当者会議を開催している。	担当職員の気づきやアセスメント結果を担当者会議で話し合い、現状に即した柔軟な支援が日々展開している。再三不安を訴える入居者がトランプに興じたり、失語症で意向の把握が困難な入居者がカラオケで歌ったり、しりとりゲームで発語が出るまでになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙を用いて、日々の様子を時系列で具体的に記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要があれば併設の介護付有料老人ホームの機能訓練器具を使って機能訓練を実施している。 又、法人全体でバックアップ出来る体制をとっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当事業所は地域に認識され浸透しており、地域資源も活用出来ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、協力病院である児嶋病院の往診、受診となるが、必要に応じて他病院の受診も行っている。	協力医療機関の看護師と24時間連絡できる体制を構築し、全入居者が月2回協力医療機関の往診を受けている。訪問歯科受診を支援し、専門科受診は契約時に家族の同行をお願いしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院である児嶋病院の看護師と24時間連絡できる体制を築いており、適切な看護や往診、受診等が出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院である児嶋病院は勿論の事、他の病院においても、綿密に連絡を取り合い、入退院の対応等において問題なく行えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応指針」に則って対応している。	入居契約時に、重度化した場合の対応を説明し、協力医療機関と終末期の意志確認書を交わしている。容態に応じて意向を確認し、看取りの希望があれば支援している。2年前、看取った家族から「感謝しかない」との謝辞があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、協力病院である児嶋病院に連絡を行い、児嶋病院の指示とおりに行動する事となっている。 又、AEDを設置している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練において、日中想定と夜間想定の実施を行っている。	併設施設と合同で年2回火災訓練を実施し、避難に要した時間や通報など8項目の成果を検証している。備蓄台帳で食料品や感染防止グッズなどを管理し、昨年8月のクラスターの発生や収束に至る経緯を活かした感染症発生時BCPや自然災害発生時のBCPを策定中である。	策定中のBCPの研修やシュミレーションにより現状に即したBCPに更新し、水害や土砂災害指定地域でない地の利に開所した地域密着型事業所として、運営推進会議で災害時の避難所の開設を提案されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応は概ね出来ている。一人ひとりの人格を尊重する事は当事業所の理念の一つである。	名字ではなく名前で呼称のほうが意志の疎通が円滑な方もあるが、「〇〇さん」と氏名の呼称を常としている。日中は居間で寛ぐ入居者の穏やかな様子から、夫々の人格を尊重した日頃の対応が伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。しかし、利用者によっては重度の認知症の為、充分汲み取れていない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活スタイルに応じて支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、ADL的に調理が出来る利用者はおらず、併設の介護付有料老人ホームの厨房職員が調理をしている。 但し、利用者には配膳等をして頂いている。	全入居者が食卓で箸で食事をとり、完食が多い。おせちなどの行事食を楽しみ、毎月の希望メニューの最多はラーメンと餃子で、誕生月には本人希望のメニューをテイクアウトしている。主治医から指示のキザミ食がすすまずミキサー食に戻した入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者に応じた食事形態を提供している。食事摂取量、水分摂取量のチェックは毎日実施している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、声掛けや誘導を行いトイレでの排泄をして頂いている。	夜間のみポータブルトイレの使用もあるが、トイレでの排泄を基本としている。排泄が尊厳に関わることを熟知し、夫々の排泄パターンに沿った誘導や声かけをしている。排泄後は陰部清拭で、尿路感染防止に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力病院である児嶋病院の医師、看護師の指示のもとに取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	併設の介護付有料老人ホームと入浴設備が共有である事から入浴日は曜日を決めて週2回以上実施している。	脱衣場と浴室に職員を配置し、週2回を目途に広い浴槽でゆっくり入浴を楽しめるように支援している。機械浴の利用もあり、「午前中入った」と入浴を拒否される方には声かけを工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室である事から、概ね、皆、本人の生活習慣に応じて休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力病院である児嶋病院の医師、看護師の指示のもとに取り組んでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様数名でトランプ等を行っており楽しんで頂いている。 又、参加出来ない方は、その方に応じたレクリエーションを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	過去、数年はコロナ禍で、外出は出来ない。 今後は本人が希望される場所にお連れしたい。	買い物の希望には職員が代行するなど、外出を控えている昨今であるが、ドライブや車窓からの花見を楽しんでいる。令和6年度は誕生月の外出が企画され、ウッドデッキの中庭を散歩できる季節の訪れを待ち望んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ない。 当事業者側で利用者一人ひとりの金銭管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や要望があれば対応出来る。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫している。 居室の掃除、整理整頓に努めている。	リビングには大きな日めくりカレンダーや入居者の書いた習字や塗り絵、クリスマスや節分の行事の際の写真が飾られ、トランプやカードゲームをしたり、新聞や雑誌を読む入居者の姿がある。テレビコーナーで食事を取る男性入居者もあり、夫々が居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが、出来るだけ自由に過ごして頂ける様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様個人の好みに合わせて自由に使用して頂いている。	居室入口の壁にはイベントの際の写真が掲示され、居室で面会される家族に暮らしぶりを伝えている。どの居室も清掃が行き届き、筆筒やテレビ、椅子、CDプレイヤーなどが持ち込まれ、お花が好きな方の居室には大きく引き延ばした花々の写真が掲示されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、テーブルや椅子等の配置にも配慮し安全な環境作りに努めている。		